

種向け新シリーズ研削盤の紹介」「自動化・機上計測・省人化」と題した3本の最新技術動向の紹介・勉強会を、恒例により同社若手営業・中堅社員が実施した。

(本社)群馬県安中市／以下、岡本工作機械(は)は2月6・8・9日の3日間、東部(東京)・西部(大阪・中部(名古屋))の順に、代理店会「2022年度 PSG会支部連絡会」を開催し、このうち西部支部連絡会は2月8日に吹田市の新大阪江坂東急REIホテルを会場に行つた。

A portrait of a man with glasses and a suit, speaking into a microphone.

代理店会恒例の若手主導プレゼン「好調業種向け新シリーズ研削盤紹介」など3本実施

ロータリー研削盤と比較して立軸ロータリー研削盤は、他の研削盤と比較して駆動する軸が上下軸でないことから、非常に早く加工を終えることが可能だ。また、立軸での砥石のアプローチでは、アヤメ模様やカタツムリ模様といった、従来当社平研削盤とは違う加工模様が現れるのも特徴。汎用性材加工まで対応できることによるようになつた

し	じ	る	内	に	年	の	間	目	し
ローチを行う。	V関連、工作機械関連等、好調業種向けにアプローチしていく分野である。	して	るが、国内は補助金などの政策によって高い水準の政策によって高い水準の維持が続くと予想。グリーンディングセンタなど新機種投入により新たな脆性材市場を開拓し、引き続き半導体装置、V	23年度受注は前年より若干下回ると思われるが、国内は補助金などの政策によって高い水準の政策によって高い水準の維持が続くと予想。グリーンディングセンタなど新機種投入により新たな脆性材市場を開拓し、引き続き半導体装置、V	る	る	る	る	る

の品目で、門形・平面削盤が挙げられる。中でも、静庄アライドの超精密平面削盤『UPGシリーズ』は、受注大幅増が要因となる。門形はEV、工作かえる。

恒例の江坂合同PS 3年ぶり開催



おける部品加工』や『防衛力の国産化』にも言及しながら、『日本政府の半導体戦略に見る未来の日本』をポイントに現在の時事関連を半導体製造装置メーカーとしての視点で解説した。最後は、石井常路社長があいさつに立ち、25年中期経営計画『創』1uが3月期を最終とした新本工機の工場新設』をあげた。

品即納など研削ソリューションをタイムリーに提供、「工作機械ショールーム」、半導体装置用クリンルームの新設』、高精度研削盤の要求が高まる中国市場での工作機械生産増強』、「ロボット用歯車の需要増に応えるため、関連会社・岡

作機械だけであり、ユーチューザーの加工精度や希望するサイクルタイムによって最適な提案ができる強みをアピールした。そして、伊藤暁常務が「『ソリューションサービス』を総合的にユーチューザー様に提供し、顧客の価値を高めていく」と述べ、具体的な

「PSG会支部連絡会」開催 新中経ビジョンは **「創」-lution** 2025

— ることが可能な新シリ— tion 2025 GRI

